日立市立日立特別支援学校

Ⅰ　実践

１　本校の人権教育の目標

○人権尊重の精神を養い、民主的な人間関係を育成する。

・自分の好き嫌いにとらわれないで、誰に対しても公平・公正に接しようとする生活態度を育てる。

小学部：誰とでも仲良くする生活態度を育成する。

中学部・高等部：誰に対しても公正公平に振る舞う生活態度を育成する。

・地域社会との交流への支援を図る。

２　実践及び成果

（１）児童・生徒への取り組み

ア　小学部での取り組み

教科・領域に合わせた日常生活の指導や生活単元学習を通して、あいさつや他者に対する意識、おもいやりの心を育てるようにしている。　校内では、挨拶や感謝の言葉かけを教師が児童に働きかけたり、児童と教師、児童同士の間での「あいさつ活動」や「ありがとう活動」を重視している。対外的な活動では、学校間交流、居住地校交流など、他の学校の同学年の友達と交流する機会を設けている。このことは、本校の児童にとって、他者と交流する機会を得、社会性を高めるよい機会となっている。本年度は、中里小学校(低学年)・油縄子小学校(中学年)の交流会活動に加え、高学年では、生活単元学習において、「出動！わたしたち よろこばれ隊」という奉仕活動を行った。油縄子小学校・諏訪小学校・多賀中学校に訪問して依頼を受けた仕事を行うというものだったが、地域とのつながりを児童自らが働きかけたり、他者のために自分の能力を生かそうとしたりする活動を通して、自尊心や自己肯定感を満たし、社会の中での他者を意識した社会の中での自分に気づく良い機会になった。その他、児童の興味・関心のある人形劇団「かくれんぼ」の鑑賞などで生活体験を増やすことができた。

中里小学校との交流会

油縄子小学校との交流会

諏訪小学校での奉仕活動

イ　中学部での取り組み

今年度は、生活単元学習で、「職業」について学び、地域の事業所の方を達人として招いて職業体験、実店舗での見学・体験、そして食品製造班やクリーニング班、美容室、木工班、洗車班、販売班に分かれての校内実習と段階的に学習をすることができた。校内実習では、達人から教えてもらった技を保護者に見てもらうこともでき、生徒たちは、楽しみながらも意欲的に活動することができた。その達成感は、一緒に働いた友達や教えてくれた事業所の方への感謝の気持ちや将来の自分の職業観にもつながった。

マナーアップ挨拶運動

総合的な学習の時間では、本校に隣接している多賀中学校との交流会に参加した。多賀中生と一緒にゲームをしたり、折り紙を折ったりしながら、徐々に打ち解け、最後には一緒にダンスを踊り、お互いに一体感を感じることができた。

「わたしのまちの学校です。わたしのまちが学校です。」のスローガンのもと、学校内外を問わず、学習の場を設定することで、生徒の自己肯定感や情操を育むことができた。

職場体験

多賀中学校との交流会

ウ　高等部での取り組み

道徳の授業が始まり、月１回のペースでグループに分かれてそれぞれ授業を工夫して行っている。その中で高等部全体の活動として、「ありがとう週間」を実施した。11 月 10 日から 12 月 12 日まで、普段の生活の中で、友達や先生に「ありがとう」と言った場面や、言ってもらえた場面を帰りの会で発表してカードに記入する活動を行った。何気ない行動から友達に感謝し、感謝されることで自分や友達の存在の大切さを感じることができた。自分で発語がない生徒も、教師と一緒に発表したり、シールで記録することで参加することができた。道徳の時間でも、「ありがとう習慣」を扱って授業を展開することができた。

また生徒会を中心として、毎年行っている「さわやかマナーアップ週間」も行った。生徒会役員と集会委員会の生徒が、朝の登校時に各学部の昇降口に立って挨拶を進んで行った。期間が短かったものの、日にちを重ねるたびに、進んで大きな声で挨拶できる児童・生徒が増えていった。今後は、校内だけでなく、近隣の中学校、高校などと行うなど活動の幅を増やしていきたい。

さわやかマナーアップ週間

ありがとうカードの活用

ありがとう週間を道徳で扱う

（２）学校・教職員の取り組み

ア　本校の人権教育目標を受け、以下の項目について全職員で共通理解を図った。

①学級目標の設定　②学級力の段階的視点の確認　③挨拶の奨励

④ありがとうの推進

イ　学校公開

「わたしたちのまちの学校」として、市立の良さを生かし、良さを伸ばしていく取り組みと、「わたしのまちが学校」として、日立市内の教育資源を最大限に活用する取り組みの中で外部の方々とのコミュニケーションと交流により、相互理解を図った。

ウ　保護者・支援機関との連携

保護者との個別面談（５月と２月）や夏休みの家庭訪問のほかに、必要に応じて家庭と連絡を取り合い、児童・生徒の実態や進路希望などについての共通理解を図ることで個に応じた指導に努めている。

Ⅱ　人権コーナーの設置

「おもいでひろば」として職員室前に設置している。修学旅行や作業学習、校外学習、キャリアトレーニングなど、各学部の行事の写真を掲示している。学校訪問の方々だけでなく、児童生徒も見ており、仲良くする態度・公正公平な態度を育成する上で効果的である。

Ⅲ　今後の課題

○各学部での交流及び共同学習は、多くの人々と触れ合うよい機会であった。今後も、児童生徒の実態や交流形態に応じた指導・支援を考えていきたい。

○外部講師を迎えた研修会の実施など、小中高で共通理解を図りながら、さらに研修を深めていきたい。